

「防災船着場整備計画（改定版）」【概要版】

令和7年10月

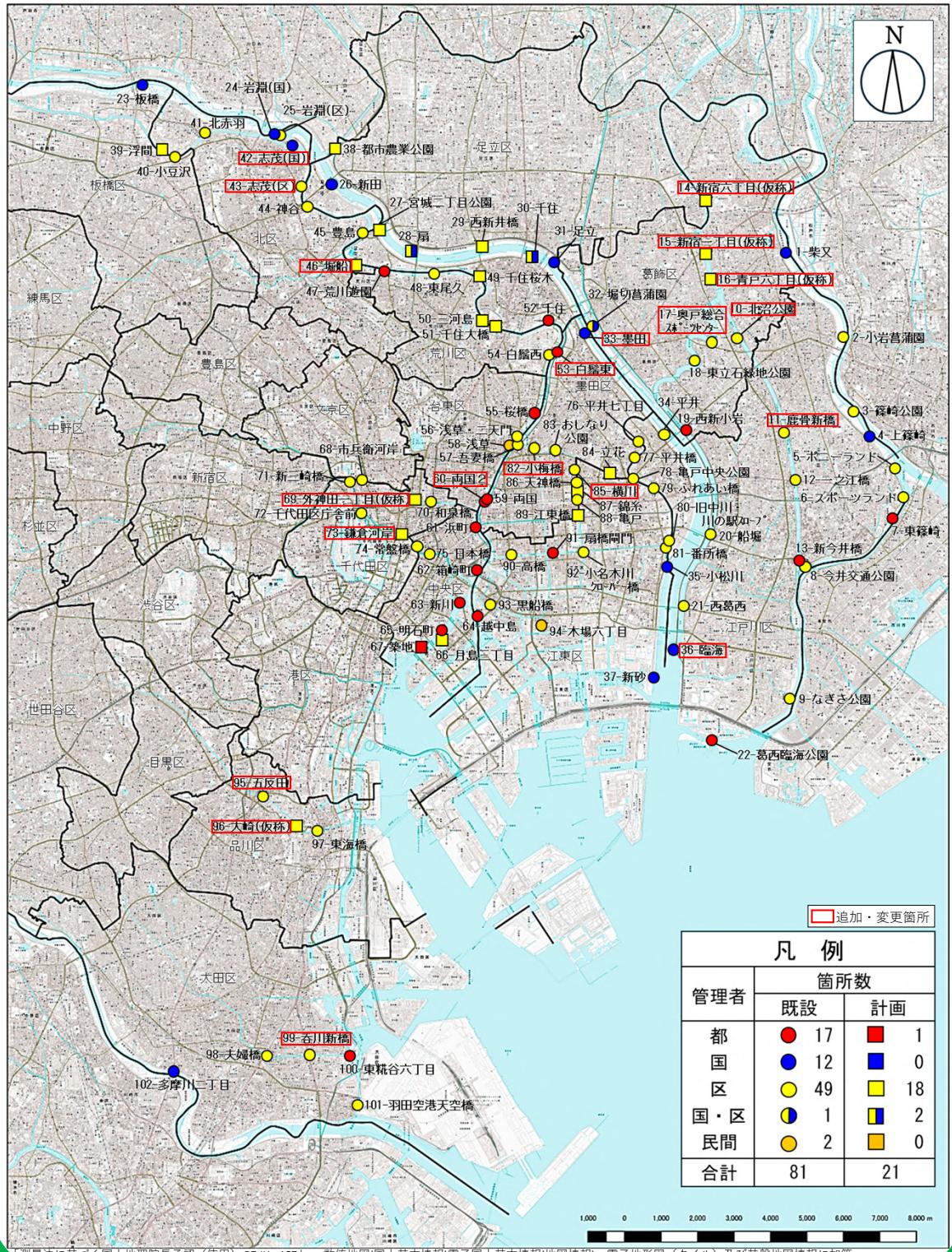
【計画の目的と改定の背景】

- 防災船着場が、災害時において河川舟運が有効に機能を果たすための拠点となることを目的に防災船着場整備計画を策定
- 平成7年1月の阪神・淡路大震災を契機に災害時における河川舟運の有効性が注目されたことなどを背景に、東京都建設局は平成11年6月に「防災船着場整備計画」を策定した。その後、平成21年、平成28年の改定を経て、近年では気候変動への対応や、災害時における防災船着場の機能確保に必要な防災船着場本体の整備事項や新たな附帯施設の拡充が求められており、これらの現状を踏まえ、計画を改定する。

【主な改定内容】

配置計画の更新

防災船着場整備計画配置図【管理者別】

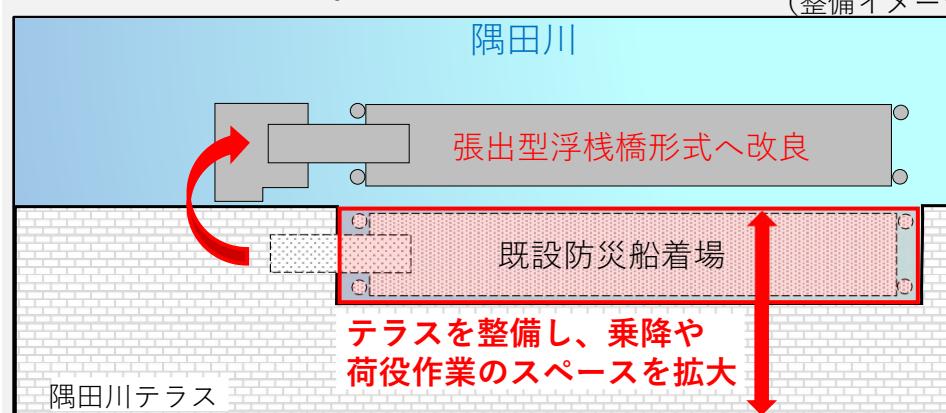


防災船着場整備における留意事項についての項目を追加

○防災船着場施設の構造形式

高水敷やテラス上に乗降や荷役作業等が可能なスペースが確保しやすい「張出型浮桟橋形式」を基本とし、治水上支障ない範囲で新設及び改良を行っていく。

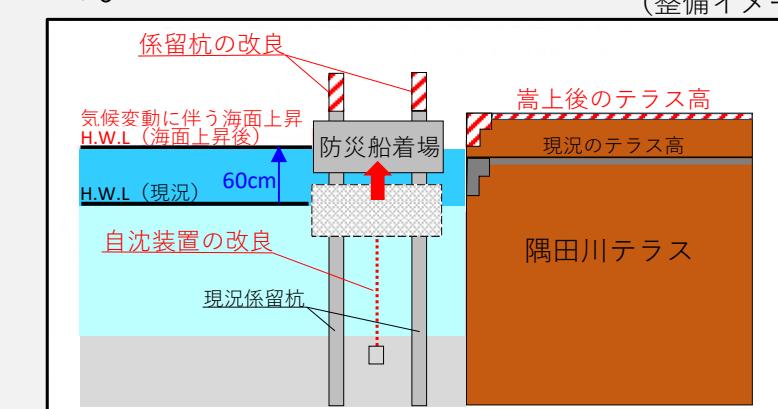
(整備イメージ)



○気候変動リスクへの対応

将来の気候変動に伴う海面上昇や台風の強化等に対応するため、これらを踏まえた検討の視点をもって新設及び改良を行っていく。

(整備イメージ)



防災船着場の附帯施設の項目を追加

○遠隔監視施設

発災後等に速やかに防災船着場の状態を確認



※施設イメージ

○船舶用防災船着場表示施設

船舶から識別可能な防災船着場の表示施設



※施設イメージ